

年 頭 所 感

一般社団法人 日本アルミニウム合金協会

会 長 山 本 隆 章

平成29年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。



会員の皆様方並びに関係各位の皆様におかれましては、本協会の運営に際しご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成29年の我が国の経済は、アベノミクスの取り組みの下、雇用所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続いているとされています。

他方、当業界を取り巻く経済状況を顧みるに、LMEアルミ相場は上昇傾向で推移し、1月の月間平均でトン当たり1,481ドルから10月には1,666ドルまで上昇した一方、外為相場は、年初以来円高ドル安傾向で推移し、1月には平均で118円だったものが8月には一時99円まで下がり、このため11月のアメリカ大統領選挙までは国内のアルミ価格は低下傾向で推移したところです。

しかし、トランプ次期大統領の誕生を契機に、新政権の減税、規制緩和、インフラ投資などの政策による景気拡大への期待から、外為市場はドル高円安へ転じ、これに伴い、国内のアルミ市況もまた上昇に転じたところです。

また、足元の状況は、国内の原料についてアルミニウムスクラップが海外へ流出しているという問題もありますが、二次合金の生産は、概ね前年並みの量が確保されており、JARA統計の11月までの数字は前年比1.2%の微増となっています。

現状では、先物契約の輸入物が一定量入って需要がカバーされていることから、国内の生産は、国内で発生するスクラップの量に合わせて生産すればいいという状況にあり、2016年上期については“一定のリサイクル原料の発生量に見合った生産”によって、製品と原材料の値差を確保することができたのではないかと見ています。

海外との関係では、CMRA(中国有色金属協会再生金属分会)からの招聘を受け、第16回フォーラムに会員企業3社とともにアルミ合金協会会長として参加してきたところです。

会議には、主催者側の発表では60カ国、1,300人の参加者があったとされ、冒頭中国の現状について政府関係者を含む関係者から報告があり、引き続いて、アメリカ、日本、欧州、および中東の代表からそれぞれの立場でのプレゼンテーションが行われました。

私からは、「彰往考来」との演題で、JARA設立以降45年あまりの合金業界の産業動向について紹介するとともに、これを踏まえた中国業界の近未来の状況についての見解を述べ、大きな反響を呼んだところです。

11月のアメリカの大統領選挙の結果、世界経済の基調は激変しました。円高から円安に為替基調の変化が起こったことに加え、LMEのアルミ価格も急激な上昇を見たところです。

この基調は業界としては悪くないと見ているところですが、トランプ氏が正式に就任する来年1月以降もこの傾向が続くかについては、実際の政権運営次第で大きく変動する可能性についても認識しておく必要があると考えているところです。

また、来年はアメリカの政権交代に加え、ドイツ、フランス、オランダ、韓国などで政権を選ぶ選挙がおこなわれることが見込まれ、政権交代の可能性も指摘されていることから、今後の海外の政治情勢にも目の離せない一年となることは否定できません。

いずれにせよ、重要基礎素材であるアルミニウム二次合金の供給とアルミニウムリサイクルの一翼を担う当業界の果たすべき役割と責任の重要性は揺るぎないものと確信しているところです。

協会と致しましては、今後とも経済や環境対策などに関する施策や関連する情報の早期の収集、伝達に努めると共に、個別企業では対応が困難な諸問題に取り組んで参る所存です。

最後になりましたが、関係各位の一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げるとともに、皆様のますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして私の年頭の挨拶とさせていただきます。